

# ヘルスマーター

## 変形性ひざ関節症について

変形性ひざ関節症の症状は、ひざの痛みです。太ももの骨、すねの骨、お皿の骨で構成されるひざ関節は、軟骨で覆われています。この軟骨が加齢などですり減って変形すると、ひざ関節にかかる衝撃を和らげる役割を十分に果たせなくなります。そのため、太ももの骨とすねの骨が直にぶつかって、痛みが出ます。

このような症状がある方は1000万人、潜在的な患者（無症状だが、レントゲンで変形のある方）は3000万人と言われ、ますます高齢化が進むので10年後には更に患者が増加していると考えられます。

変形性ひざ関節症は初期、中期、末期と進行していき、末期になるとO脚になり、膝をまっすぐ伸ばせなくなります。薬や注射、装具、リハビリをしても痛みが取れないと手術が検討されます。手術の主流は、傷んだ軟骨、骨を薄く削り取って、表面に金属のカバーを被せる人工ひざ関節置換術です。現在は、皮膚や筋肉を最小限に切開して行うことができ、術後の回復が早いため、人によっては2週間位で退院することができます。ただし、変形の程度で手術の内容は変わります。なるべく身体の負担を少なくしたいのであれば、「そのうち良くなるかもしれない」と考えて我慢せずに、早めに受診しましょう。残念ながら、ひざ関節は元には戻りません。損傷が進むほど治療は大がかりになり、術後の状態にも制限が出る場合がありますので、適切な診断を受け、適切な時期に手術を考えるようにしましょう。もちろんひざの状態によっては人工ひざ関節置換術だけでなく、骨切り術など他の手術法も行える場合があります。ひとりで悩まず、ひざ専門の整形外科医にかかることをおすすめします。